

第4 1 回みんなのタウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和8年5月30日（土） 午後10時30分～12時
- 2 開催場所 市民会館・萌え木ホール
- 3 参加者 市長及び市民5名
- 4 会議次第 (1) 開会
(2) 市長あいさつ（市政報告）
(3) 懇談（テーマ「ふるさと納税について」）
(4) 閉会

5 懇談内容要旨

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
1	第二庁舎の耐用年数について	第二庁舎の建物の耐用年数はあと何十年残っていますか。また、第二庁舎を建設した業者の名前を教えてください。	当時設定している耐用年数は、一般的に考えて恐らく60年ぐらいであろうということですが、それもおそらく、例えば20年目、30年目といった段階で大規模修繕をしたうえのことだと思います。ただ、第二庁舎は市の建物ではありませんので、新庁舎ができれば第二庁舎は持ち主にお返しをするものと考えています。 第二庁舎を建設した事業者の名前は、ここで正確にお答えできませんので、持ち帰らせていただきます。
2	学校開放日について	第二小学校に生徒がいなければ、もう学校開放日に授業を参観することはできないのでしょうか。	学校開放日の件は学校の対応になりますので、私のほうからお答えすることはできません。
3	寄附について	寄附をするのは市民の当然の権利なのに、社会福祉協議会ではこれを拒否しています。一方で、私以外の人が寄附をしに来ると、頭を下げて受け取ります。そういう職員の態度ややり方に納得できません。 また、小金井市では物納による寄附は禁止されています。私は自分の代で絶家になるので、土地建物を小金井に寄附しようとしたのですが、物納は寄附として受け付けません、土地建物を売却して現金化し、その現金を寄附するということであれば受け付けます、と言われました。以前、玉川上水の脇に憩いの家のようなところがありましたが、あそこも小金井市には寄附として受け取ってもらえず、社会福祉協議会に寄附されました。しかし、運営していないからと更地にされ、今は駐車場になってしまいました。私のところも同じようになるとありますが、そのあたりはどうなっているのでしょうか。	市への寄附については、物件の状況や土地建物がどういうものかという個別の状況によってお答えも違ってくると思います。物納は受け付けないという点については、過去に物納を受けたことがありますので、事と内容によるかと思います。物納は一切受け付けないということはありません。
4	寄附金の使用用途拡充について	説明を聞き、税収の流出額が大きくて苦しい状況ではあるものの、新しいものをどんどん取り入れて何とかしていこうという熱意が感じられ、いろいろ工夫されているなと思いました。 以前、市議会議員の方と話したときに、ふるさと納税として市外の方から寄附してもらうのももちろんですが、もっとクラウドファンディングを活用したり、ふるさと納税をしている市民に対し働きかけをしたりしてはどうかという話をしました。 ふるさと納税をするときに、寄付者が寄附したお金を何に使ってもらいたいかを選ぶフォームがあります。小金井市では何が選べるのだろうかと思ってみると、市長にお任せ、福祉関連、教育関連、あとは緑か何か合計で4つぐらいの選択肢になっていました。おそらく標準設定なんだとは思いますが、あそこをもう少し工夫して、例えば先ほどの説明にあったト	自分の住むまちに納税しても、ふるさと納税とは異なり返礼品はもらえませんので、なかなか難しいところかもしれません。しかし、「本当にここを何とかして欲しいと思っている」「その事業に使ってもらえるんだったら」という方は、当然ながら一定程度いらっしゃるということです。指定先や内容、その見せ方などが課題だと思っています。まずは御意見として受け止めさせていただきます。

		イレカーのプロジェクトをメニューに加えていたりすると、市民が見た場合でも、小金井市でのふるさと納税の用途がわかります。そこが明確になっていると、自分自身が使いたい、使ってほしいと思ったところに直接貢献しているという感情が芽生え、返礼品はもらえなかったとしても、ふるさと納税をせず小金井市に納税しようと思えるのではないかと思うので、そういう形のことも検討していただければと思います。	
5	ふるさと納税利用者への行政サービスについて	地方税を行政サービスの対価と考えた場合、ふるさと納税をすることによって本来小金井市に納めるはずだった住民税が寄附金税額控除として減額されている人に対しては、行政サービスの質的、量的なものの縮小という方向でお返しするしかないのではないかと考えています。 具体的には、例えば粗大ごみの回収について、税額控除を受けることなく小金井市に完納している人に対しては、回収機会を増やすとか回収スピードを速めるといった形で、サービスの質的、量的の向上としてお返しするというスタンスで臨めばいいことですし、そのことを市の広報などにおいても逐次伝えるようにされてはいいかでしょうか。 その他、市単独の補助制度や助成制度などについても、同じようにふるさと納税を利用していない人を優先しますという一言を市報の各案内に加えるだけで、地元に対して納税していないと、相応の対価も返ってこないということを実感していただく形にもなると考えています。 最近は子育て世代の流入がかなり多いのではないかと考えていますが、それに比例するようにふるさと納税額による市税の減収が増えてきているということは、やはり子育て世代の方がふるさと納税を積極的に活用されて、結果として小金井市への納税を減らしてしまっているということかと思っています。小金井の場合、公共施設全般が老朽化していて、特に小中学校のトイレの汚さについてはかなり広く伝わっているところですので、早めに解消するためにも、あなたの納税がお子さんの教育環境を向上させます、ということを積極的にアピールして、小金井市への納税を促すように、機会あるごとに取り組んでみてはいかがでしょうか。	ふるさと納税が制度として存在し、その制度に基づいて利用されている限り、ふるさと納税をしない方を優先するということは、やるべきではないと思います。 非常に言い辛いところではありますが、市に不満があるから他に納税するんだという方もいらっしゃるんです。当然、私も客観的には見ており、いろいろ進めてきたり、改善したこともあります。課題解決ができてないことがたくさんあるということをよく分かっていますので、反論のしようがありません。 特産物がない自治体には苦しい制度だと思う一方、さきほどお見せしたランキングのとおり、海産物や牛肉がない自治体でも頑張っているところもあります。そういう事実がある以上、小金井市も頑張れと言われたら、我々も既にある知恵をさらに絞ってやっていくべきですし、まだ他にできることがあるのではないかと考えていることもあって、この場を設けさせていただいたということもあります。 まず御意見としては受け止めますが、いきなりそういった政策を進めていこうという思いにはなれないということはお伝えしたいと思います。 実は私が市議会議員のとき、ご提案と同じように「ふるさと納税で流出している額は、市の事業で言うところのこれぐらいの額だということを、大々的に市民の皆さんに知ってもらべきだ」と言っていましたが、他の自治体で、そういう事実を公にアピールしていたら、それが原因かどうかはわかりませんが、ふるさと納税をしていなかった人も皆が使っていることに気づいてしまい、さらにふるさと納税による流出が増えてしまったという話もあったので、少し消極的になったところはあります。 単にふるさと納税しないでくださいというだけでは、そんなことを言っていないで自分達こそ頑張れと言われるだけです。地域の皆さんにも様々な立場があり、制度がある以上、それを利用することを妨げるというのは少し違うと思いますが、ただ、事実として伝える必要はあるかなと思いますので、実情を分かっているということ、そして、使途について気づいていただけるよう働きかける内容などをセットにして出したほうが良いのではないかとはいえます。先ほどいただいた御意見も含めて、市民の皆さんに、今の実情と、逆に言うと効果的に市のほうに寄附いただくような仕掛けとを考えたいと思います。

6	市外在住者に対する返礼品の宣伝について	小金井市自体は中央線制度の特徴のある、語れることがいろいろあるまちだと思っていますので、そういったところをうまく活用したアピールの仕方をして、ふるさと納税として市外の方からの寄附を集めるように取り組んでいただけたらと思っています。	私自身、緑の多い良好な住環境を形成したまちだと思っていますが、他に何かあるか考えると、一つの特徴として「教育」があると思っています。教育機関で何かをすることは難しいですが、うまく連携していけないだろうかと思っています。 今すぐ何かをするわけではありませんが、小金井市としてのさらなる特徴、それを市民の皆さんに対して還元できる、活かすということと同時に、外に対して小金井市の価値をしっかりと順序立てて構築して高められれば、それをテーマにしたふるさと納税や、それに呼応する寄附を集めるというのも可能なのではないかと考えています。 教育というのは、やはりまちのこれからの発展、併せて小金井市の特徴であり、外部から見ても「小金井市は教育のまちだ」と言ってもらえる流れをつくるというのが一つのテーマになるかと思います。
7	偏在是正問題について	偏在是正問題について心配しています。国が、東京都に税金が集まり過ぎているから地方に回せと言っているようですが、何らかの形で押し切られてしまうような気がします。その場合、小金井市のように財政基盤が脆弱ですと、ただでさえなかなか進まなかったところがさらに減速してしまう恐れがあります。それはどうしても回避したいので、小金井市選出の国会議員の方にぜひ一度会っていただいて、小金井市内の公共施設、あるいは小中学校の老朽化ぶりを直接御覧いただき、これが偏在性なのか、財源が流されてしまうとさらに改善が進まなくなってしまうんだということを肌で理解していただいて、東京都全体が恵まれているわけではなく、中には非常に危ない自治体もあるので、そういったところに対しても、ピンポイントの補完措置というものを講じていただくようお願いしていただきたいと思います。	50歳以下の自治体首長が集まる「青年市長会」という任意の会に加入しており、全国から集まった首長の方々と様々な話をしますが、やはり「東京は恵まれている」ということばかり言われます。小金井市は、何年か前に一度地方交付税交付金をもらいましたが微々たる額で、それ以外はもらっていない「不交付団体」と言われる自治体です。 不交付団体というのは、簡単にいうと総務省の算定方式によって自前の財源だけでやりくりができると位置づけられたところですが、財政力指数1を切れば交付団体になりますが、小金井市は1.01や1.02という、そのラインをぎりぎり越えている自治体なので、決して裕福ではありません。不交付団体は全国で80ぐらいしかなく、それ以外の1,700自治体ぐらいはもらっているわけですから、日本全体からすると、地方交付税交付金をもらっている自治体のほうが圧倒的に多いわけです。 東京というだけで、特別区である23区と一緒にされて「恵まれている」と言われても、多摩地域と23区は全く税収構造も財政構造も違います。23区は特別区財政調整交付金や特別交付金のように、東京都から交付されるお金がふんだんにあり、基金も一桁違います。その23区と一緒にされても本当に困りますが、地方からしてみると東京というだけで同じですので、非常に立場が悪いです。 衆議院議員の方にしっかり状況を分かって、見て、働きかけてほしいというご提案をいただきましたが、実は既にそういう動きは始めており、さらに文部科学大臣にもお会いできないかという話もしています。 なぜ文部科学大臣かといいますと、第一小学校の工事は落札されはしましたが、金額を2回上げてようやくのことでした。第一小学校を皮切りに、これから順番で各小中学校に対し建て替え、長寿命化、大規模改修、屋上防水といった、何かしらの手入れをしていかなければなりません、今の状況が続くと、財政運営ができなくなります。こういった実情を理解していただきたいと、かねてから18区選出の衆議院議員の方には相談していますので、御協力をいただきながら、国に対しても直接働きかけていきたいと思っています。
8	奨学金について	奨学金は成績の良い子だけに配れば良いと思います。これについて、市長はどういうご意見をお持ちですか。	小金井市として独自の奨学金制度があります。それには、成績だけではなく選定する要件というものがあり、それに基づいて選定委員会の中で審査をしています。 奨学金といっても大きな額ではありませんが、市として貸与者の要件を決めて、応募があった中から審査をさせていただいているという現状だけお伝えします。
9	水路の活用について	小金井市には縦横無尽に水路があり、どれも目立ちませんが、今は遊歩道になっています。この遊歩道に穴を掘ると、その下にはまだコンクリートの管も埋まっていて、国分寺と小金井の境辺りの栓を抜けば、いつでも	そういうご提案があったということは担当のほうにお伝えしたいと思います。

		小金井に水が流れてきます。税収が減ることを問題にするよりも、小型の発電機が発明されているので、それを借りるなどして電気を賄ったら良いのではないかと思いますがいかがでしょうか。	
10	市外在住の方へのふるさと納税の宣伝について	本日の参加にあたり、小金井市のふるさと納税のメニューを詳しく見たところ、小金井市を他市の人に知ってもらうというところで、私自身も何かできるところがあるのではないかと感じ、職場で「小金井市ではビールがあるよ」というようなアピールをしてみようと思いました。	今のご意見を伺って、市民の皆さんが、市外にお住まいの方がいる職場などの関係先で、小金井市の宣伝をしてくださることもあるのだと気づかされました。とても有難いことですので、宣伝したいと思うようなこちらの材料を、いかに用意できるかということを中心に考えていきたいと思っています。
11	寄附がしやすくなる仕組みについて	私の子ども達は保育園も学童も卒園、卒所していますが、保育園ではイベント等の度に寄附のお願いが回ってきていました。卒園してしまうと、何に使われるかわからないところもあって躊躇してしまい、ここまで寄附をせずに来ている。学童も同じで、寄附としてお金を渡してしまうと、予算・決算などに影響してしまうのではないかと考えてしまい寄附をしづらいところがありますが、そのしづらさを取り除いてくれているのが、ふるさと納税という制度なのかもしれないと感じています。 おそらく、小金井市も寄附の受付窓口があると思いますが、扱いがどうなるのか不安でやりたいものはありませんので、こういう入り口としてのふるさと納税があって、小金井市を応援したい人が小金井市に直接寄附ができる、そういう仕組みになっていたら良いと思います。	寄附しても良いと思う方はいらっしゃると思いますし、そういったお話しも耳にしますが、寄附しやすい環境であったり、寄附して良いのかわからなかったりというように、明確なものがなくなっているような気がします。おそらく行政は、「寄附してください」ということを今まで積極的に言ってこなかったのではないかと思いますので、ふるさと納税だけではなく、色々な意味で、市民の皆さんが「こういうふうに使ってくれるのであれば良い」と思ってもらえるような仕組みを考えなければならぬと感じました。
12	学生の集まるまちについて	先ほど市長から、教育のまちという観点を利用してというお話がありましたが、教育という受ける側からの目線になってしまい、受ける側の目線ではありません。 私は、「教育のまち」とは言っても「学生のまち」と言いにくいのが小金井市の弱みだと思っており、実際に武蔵小金井駅周辺に行くと、昔と違って学生のたまり場のようなものがなかなか見つかりません。 辻調理師専門学校のレストランに行きましたが、小金井市内に学校があるにもかかわらず、武蔵小金井駅や東小金井駅から直接行けるアクセスがなく、専門学校の前に止まるバスは小平と国分寺を結ぶバスでした。せっかくあそこに意欲を持った学生が集まっているのに、普段乗り降りする駅は国分寺や小平というのは、寂しいと感じます。 教育のまちという見方より、どちらかというと学生のまちという観点で少し物事を捉え直して小金井の中心部に学生を集めるような機会を設け、それに対してクラウドファンディングなり、ふるさと納税のきっかけにするというような考えがあっても良いのではないかと思います。	確かに、辻調理師専門学校への直接アクセスがないというのは課題だと思っていますが、やはり民間バス会社の都合もありますので、なかなかすぐに解決とはいきませんが、学生に焦点を当てるとするのは非常に重要だと思っています。小金井市として、今後、注目すべき、もしくは積極的に関わりを持っていかなければならないところが学生であり、若者層だと思っていますので、改めて学生に焦点を当てた考えや、そういうところからストーリーを作っていくということも併せて、考えたいと思います。
13	教育について	教育の「教」という漢字は、もともと体罰を加えて体に教え込ませるという意味があり、それが「教える」ということの本当の意味だと思います。怪我をしたり亡くなったりするようなことはもちろん良くないことですが、本当は厳しい教え方が教育なんだと思います。これについて市長はどう思われますか。	由来についてはわかりましたが、現在行われているこれからの次世代を育む教育というものが、基本になるものだと思っています。